

平成 23 年度 事業報告書

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

学校法人 北都健勝学園

～ 「ともに学び・ともに生きる」 北都健勝学園 ～

北都健勝学園は、今年 18 年目を迎えます。平成 6 年、村上の地に創設されてから、多くの医療人を、地域社会に還元すべく人材を育成出来るように励んで参りました。

新潟リハビリテーション専門学校は平成 24 年度にて閉校となりますが、その魂は大学に引き継がれます。これからも学生とともに学び、地域とともに生きる。新しく小さな大学だからこそ果たせる、知識の共有と透明性の獲得が、困難な新しい時代を切り開く原動力になると考えております。こうしたきめ細やかな人間性の育成は新潟看護医療専門学校へも受け継がれております。

北都健勝学園は、世界水準の医療教育機関として、次世代の社会を担う医療人の育成に、さらに尽力して参りたいと存じます。本学園の運営につきまして、ご理解を賜りますとともに、さらなるご支援をいただけますようお願い申し上げます。

学校法人 北都健勝学園

理事長 的場巳知子

目 次

ご挨拶

I. 法人の概要 1

1. 法人の名称
2. 事業所の所在地
3. 認可年月日
4. 建学の精神
5. 法人の沿革
6. 設置する学校・学科及び関連施設
7. 定員、学生数の状況
8. 役員等の概要
9. 評議員の概要
10. 教職員の概要

II. 事業の概要 4

1. 法人本部
2. 新潟リハビリテーション大学 医療学部
3. 新潟リハビリテーション大学 大学院
4. 新潟リハビリテーション専門学校
5. 新潟看護医療専門学校

III. 財務の概要 16

1. 概況説明
2. 経年比較
3. 収益事業

I. 法人の概要

1. 法人の名称 学校法人北都健勝学園
2. 事業所の所在地 新潟県村上市上の山 2 番 16 号
3. 認可年月日 平成 6 年 12 月 8 日

4. 建学の精神

現代医療並びに社会福祉に対応できる専門知識を有し、医療スタッフの一員としての責任感と協力の精神に満ちた人材を育成し、21 世紀における高齢化社会の医療と福祉に貢献しようとするものである。

5. 法人の沿革

月 日	内 容
平成 6 年 10 月	学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーション専門学校設立準備室開設
平成 6 年 12 月	学校法人北都健勝学園寄附行為認可(新潟県) 新潟リハビリテーション専門学校設置認可(新潟県)
平成 7 年 4 月	新潟リハビリテーション専門学校開学 (理学療法学科 作業療法学科 言語療法学科) 理学療法士 作業療法士施設指定承認(厚生省)
平成 10 年 12 月	新潟リハビリテーション専門学校 言語療法学科から言語聴覚学科に科名変更 言語聴覚士養生所指定承認(厚生省)
平成 12 年 4 月	新潟リハビリテーション専門学校(理学療法学科) 入学定員増(40 名)認可 (新潟県・厚生労働省) 新潟リハビリテーション専門学校 鍼灸療法学科 学科増設認可 (新潟県・厚生労働省)
平成 12 年 4 月	新潟看護専門学校設置認可(新潟県)
平成 16 年 4 月	新潟看護専門学校開学 (看護学科)指定承認(厚生労働省)
平成 17 年 12 月	癒しのサロンFOU鍼灸接骨院(東京都中央区銀座 3-3-7)開設
平成 18 年 7 月	癒しのサロンFOU鍼灸院村上(新潟県村上市上の山 2 番 16 号)開設
平成 19 年 1 月	新潟リハビリテーション大学院大学設置認可(文部科学省)
平成 19 年 4 月	新潟リハビリテーション大学院大学開学
平成 20 年 11 月	癒しのサロンFOU鍼灸接骨院(東京都中央区銀座 3-3-7)閉鎖
平成 21 年 9 月	新潟リハビリテーション専門学校鍼灸療法学科指定申請取消
平成 21 年 10 月	新潟リハビリテーション大学院大学設置認可(文部科学省)
平成 22 年 1 月	新潟看護医療専門学校附属東洋医療センター鍼灸治療院 (新潟市西区みずき野 2-20-38)開設
平成 22 年 3 月	新潟リハビリテーション専門学校 理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科 募集停止届提出(新潟県)
平成 22 年 3 月	新潟看護専門学校校舎各室用途変更認可(厚生労働省関東信越厚生局)
平成 22 年 3 月	新潟看護医療専門学校東洋医療学科設置認可(厚生労働省関東信越厚生局)
平成 22 年 4 月	新潟リハビリテーション大学院大学開学 新潟リハビリテーション大学院大学から新潟リハビリテーション大学院に校名

	変更届提出(文部科学省)
平成 22 年 4 月	新潟看護専門学校から新潟看護医療専門学校に校名変更し、東洋医療学科増設
平成 22 年 4 月	癒しのサロンFOU村上閉鎖
平成 22 年 4 月	村上東洋医療センター開設(訪問治療)(新潟県村上市上の山 2 番 16 号)
平成 23 年 8 月	学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーションクリニック(心療内科)開設(新潟県村上市上の山 2 番 16 号)
平成 24 年 3 月	学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーションクリニック診療科目追加(精神科、小児科)(新潟県村上市上の山2番16号)

6. 設置する学校・学科及び関連施設

(1) 学校名: 新潟リハビリテーション大学

学 部: 医療学部

学 科: リハビリテーション学科

専 攻: 理学療法学専攻、言語聴覚学専攻

住 所: 〒958-0053 新潟県村上市上の山 2 番 16 号

研究科: リハビリテーション研究科

専 攻: リハビリテーション医療学

コース: 摂食・嚥下障害コース、高次脳機能障害コース

住 所: 〒958-0053 新潟県村上市上の山 2 番 16 号

(2) 学校名: 新潟リハビリテーション専門学校

学 科: 理学療法学科, 作業療法学科, 言語聴覚学科

住 所: 〒958-0053 新潟県村上市上の山 2 番 16 号

(3) 学校名: 新潟看護医療専門学校

学 科: 看護学科、東洋医療学科

住 所: 〒950-2264 新潟市西区みずき野 1-105-1

(4) 施設名: 新潟看護医療専門学校附属東洋医療センター鍼灸治療院

業務の種類: はり、きゅう

住 所: 〒950-2264 新潟市西区みずき野 2-20-38

(5) 施設名: 村上東洋医療センター(訪問)

業務の種類: はり、きゅう

住 所: 〒958-0053 村上市上の山2番16号

(6) 施設名: 学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーションクリニック

業務の種類: 心療内科、精神科、小児科

住 所: 〒958-0053 村上市上の山2番16号

7. 定員、学生数の状況(平成 24 年 3 月 31 日現在)

	新潟リハビリテーション大学			新潟リハビリテーション専門学校			新潟看護医療専門学校		合計
	理学療法学 4 年制 定員 40 名	言語聴覚学 4 年制 定員 40 名	研究科 2 年制 定員 24 名	理学療法 4 年制 定員 40 名	作業療法 4 年制 定員 20 名	言語聴覚 4 年制 定員 30 名	看護 3 年制 定員 40 名	東洋医療 3 年制 定員 30 名	
1 学年	48	29	4				44	7	132
2 学年	40	10	5				42	4	101
3 学年			4	29	10	3	41	3	90
4 学年				28	8	6			42
合計	88	39	13	57	18	9	127	14	365

8. 役員等の概要(平成 24 年 3 月 31 日現在)

理事(定数 7 人以上 10 人):現数 9 人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	備考
理事長	的場 已知子	常勤	平成 14 年 10 月 就任
理事	野田 忠	常勤	平成 23 年 3 月 就任
理事	小野 敏子	常勤	平成 17 年 4 月 就任
理事	平井 顯徳	常勤	平成 22 年 4 月 就任
理事	伴 雅史	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
理事	川崎 久	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
理事	加藤 幹司	非常勤	平成 22 年 10 月 就任
理事	田宮 崇	非常勤	平成 22 年 11 月 就任
理事	原田 慎司	常勤	平成 22 年 4 月 就任

監事(定数 2 名):現数 2 名

監事	若穂田 正英	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
監事	鳥田 次郎	非常勤	平成 22 年 4 月 再任

9. 評議員の概要(平成 24 年 3 月 31 日現在)

評議員(定数 15 人以上 21 人):現数 21 人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	備考
評議員	平井 顯徳	常勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	大澤 源吾	常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	小野 敏子	常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	宇津木 努	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	塚原 智弘	常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	星野 浩通	常勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	高橋 圭三	常勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	川崎 久	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	浦壁 英紀	常勤	平成 22 年 4 月 再任

評議員	石橋 政雄	常 勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	海藤 是夫	常 勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	渡邊 好博	常 勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	郷内 秀樹	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	金内 善昭	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	近 貴 司	常 勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	山村 千絵	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	加藤 豊広	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	松林 義人	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	櫻井 晶	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	野田 忠	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	小田 奈美枝	常 勤	平成 22 年 4 月 就任

10. 教職員の概要(平成 24 年 3 月 31 日現在)

区 分	新潟リハビリテーション 大学		新潟リハビリテーション 専門学校		新潟看護医療 専門学校		計	
	本務	兼務	本務	兼務	本務	兼務	本務	兼務
教 員	24	42	12	48	12	48	48	138
職 員	9	1	2	5	4	2	15	8
計	33	43	14	53	16	50	63	146

II. 事業の概要

1. 法人本部

学園の経営理念を掲げ、運営の安定化にむけ、必要とされる学園となる為に、学生・教職員の質的確保への組織改革を実行した。

より良い人材確保に重点を置き、大学では、学校運営に長けた人物の登用を始め、新学長を中心とした円滑な大学組織への基礎作りをサポートしている。また、新潟リハビリテーション専門学校の閉校に向けた、準備と今後の中長期計画への移行も含めて、卒業生への対応も同時に着手している。新潟看護医療専門学校では、東洋医療の学生確保に向けて人材配置を考慮しサポートを行い、ある程度の成果が上がったと考えている。看護学科においては、人的確保にむけ努力を行った。教職員の衛生環境に対しては、衛生委員会の報告を得て、対応を検討している。8月には、新潟リハビリテーションクリニックを開業し、教職員に対する福利厚生の一環として、また学生や地域への還元、収益事業の強化などを目指し運営を開始した。海外提携に関しては、韓国のドンジュ大学・金海大学校・ハッピーホスピタルと提携を新たに結んだ。また企業との連携も、順次行っている。

法人としては、迅速な対応を心がけ、中長期計画の推進に向けた準備を開始した1年となった。しかし、各学校の状況を集約し、学生の満足度を上げるための努力や組織力の強化には、まだ不十分な点も多く、課題の改善を早急に行うように動いている。

学園の理念・目的の周知徹底には、具現化までの時間を要するため、より分かりやすく、またより具体的に説明する努力が必要との認識を新たにした。本学の個性が、他の学校との差別化においても明確なイメージとして結実できず、創意工夫が重大な課題である。

2. 新潟リハビリテーション大学 医療学部

(1) 事業報告概要

本年度は開学から2年目、大学としての組織体制の改善、充実をはかり、教育の質の向上をさらに推進させることを目標とした1年間であったが、多くの部分でその目標を達する事ができた。

今年度は大学院開設から通算すると5年目であり、開学後7年以内に受審が義務付けられている外部認証評価機関による大学機能評価に対して、その準備を今年度から着手した。

大学機能評価と密接に関連する大学教育の質向上に重点を置き、FD委員会主導のもとに、定期的なFD研修会、公開講座等を開催し、教育の質保証を堅実に推進した。

さらに、教育の質保証に加え、本学の特色を明確化し他大学との相互補完に重点を置き、下越地域における各大学間の積極的な連携を進めた。また長寿大学をはじめとする地域住民の啓発活動に対しては積極的に協力し、本学を地域に開かれたものとして、地域との連携をさらに推進した。

また、教育の質保証とともに教育機関にとってもうひとつの重要事項、財政基盤の安定に向けても真剣に取り組み、学生会、保護者会も活動を本格的に開始した1年間であった。以下にこれらの重点事項を中心に平成23年度に取り組んだ事業の成果を報告する。

(2) 学生確保に向けた取り組みに関して

- a. 大学の概要が正しく理解できるように、本学のホームページの再構築を行い、大学パンフレットも明るく親しみやすいものに改変し、大学のイメージ改善に努めた。
- b. 各高校の進路指導教諭に対し本学の説明を丁寧に行った。特に言語聴覚士に対する認知度・理解度が低いため、言語聴覚士の将来性を含めてのわかりやすい説明を行った。
- c. 中学生及び高校生に対して、理学療法士及び言語聴覚士についての認識を高めるための出張授業等を行った。
- d. 特に言語聴覚学専攻の学生確保を視野に捉え、LSVT(LOUD)を神経学会の研修会プログラムの中に組み込み、本学の言語聴覚学領域における主導性のアピールを行った。
- e. 入学試験は推薦試験、一般試験に加え、AO試験、社会人試験、センター試験も採用し、多角的な選抜を行い、多様な学生確保を図った。
- f. その結果、リハビリテーション学科(定員80名)としての定員は確保した(入学者87名)が、言語聴覚学専攻は未だ認知度が低く、合格者は定員に及ばなかった(24名)。
- g. 一般の奨学金に加え、村上市との協力のもと、村上市特別奨学生(特待生)、さらに本学独自の奨学金制度も充実させ、優秀な学生の確保に努めた。
- h. 学生の退学・休学を予防するため、チューター制を活用し、個々の学生に対し積極的に状況把握に努め、きめ細やかな相談助言を行った(退学者:理学6名、言語4名)。

(3) 教育の質的向上を目指した取り組みに関して

- a. リハビリテーション医療に関連した教育及び研究等の業績、さらに十分な臨床経験を積んだ3名の理学療法専攻教員を採用した。
- b. 学生の成績評価を厳格に、且つ透明性及び社会的説明責任を明らかにするため、成績を5段階で評価するグレード・ポイント・アベレージ(以下GPA)制度の使用を開始した。
- c. FD委員会主導のもと、定期的に教育の改善を目指した内容のFD研修会を今年度も継続して実施した(下記FD研修会活動報告表を参照)。
- d. 新任教員にはFDへの取り組みの理解、自己啓発意欲の向上、本学の教育理念及び専任教員としての心構えの理解等目的に新任教員研修を行った。
- e. 7月と2月、学生に対し「講義に関するアンケート」を実施した。教員の能力向上、講義内容の改善を目指すため、その集計結果を各教員にフィードバックした。さらに一部の講義を全教員に公開し、批判的視点からの良否検討を行い、講義技術の向上を図った。

- f. 各教員の担当講義科目に関連する学会、その他教員の自己啓発に有用な各種研修会に可能な限り参加するよう努めた。
- g. 昼休み時間を利用してランチオンセミナーをサロン教室にて行い、各教員の研究成果の紹介及び質疑応答を行い、教育・研究の質向上を図ることができた(今年度 3 回開催)。
- h. また国際交流の一環として学生の講義の中に外国人による講義を組み込み、学生の国際交流意識の向上を図った。活発な質問がありその目的は概ね達せられた(今年度 2 回開催)。

FD研修会平成 23 年度活動報告表

月	日	主な活動	活動内容
4 月	11 日 25 日	第 1 回 FD 委員会 第 1 回 FD 研修会:新任教員研修	平成 22 年度 FD 活動報告及び平成 23 年度 FD 活動計画。 テーマ: I 新潟リハビリテーション大学を知る。 II 本学における FD の取り組み。 講師: 山村千絵 新任教員 3 名出席。
5 月	13 日	公開講義	神経生理学公開講義 講師 真貝富夫。 第 3 限(13 時～14 時 30 分) 参加者 9 名。
6 月	13 日	第 2 回 FD 研修会	テーマ: 本学学生の特徴と今後の対応について。 講師: 宮岡里美 21 名参加(2 名欠席)。
7 月	下旬	アンケート	前期科目について講義内容のアンケートを実施。
9 月		アンケート	アンケート集計・分析。
12 月	12 日	第 2 回 FD 委員会	今後の FD 活動について。次回の FD 研修会について。
1 月	16 日	第 3 回 FD 研修会	テーマ: 本学学生に対する教育方法の検討。 講師: 熊木克治, 倉智雅子, 平田恒彦。 23 名参加(3 名欠席)。
2 月	13 日 下旬	第 4 回 FD 研修会 アンケート	テーマ: 本学学生に対する教育方法の検討続編。 講師: 熊木克治, 倉智雅子。 23 名参加(2 名欠席)。 後期及び通年科目の講義に関して、アンケートを実施。
3 月	中旬 12 日	アンケート 第 3 回 FD 委員会	アンケート集計・分析。 平成 23 年度 FD 活動報告。平成 24 年度 FD 活動計画案。 講義に関するアンケート結果について。

(4) 地域連携を深めるための取り組みに関して

本学の特色を明確化し他大学との相互補完に重点を置き、下越地域における各大学間の積極的な連携を推進した。さらに、地域社会との連携では、村上市各地区で開催されている長寿大学等の教育文化活動に積極的に参加することを今年度も継続し、大学を地域に開かれたものとした。地域との連携を深めるため、これまでの各種の講演会を新潟リハビリテーション大学セミナーの名のもとに統一して行った(下表参照)。中学校や高等学校に出張しての授業も積極的に行い、言語聴覚学専攻学生の確保とも関連するが、地域の中高生に本学を身近なものとして認識させ、本学への関心を高めるよう努力した。さらに地域の老人クラブとも連携し、高齢者を対象とした転倒予防教室を本学内で開催し、大学を地域に開放するとともに、地域高齢者の転倒予防を推進した。

平成 23 年度新潟リハビリテーション大学セミナー

平成 23 年	講演名	講演題目	
5 月 27 日	高坪大学開講記念講演	「中高年の心の健康」 「人生の経過を踏まえた健康管理法」	佐藤拓 和田
6 月 16 日	山北高嶺大学	「一口目のビールがおいしいのは・・・？」	真貝
6 月 20 日	村上地区長寿大学	「放射能って？」	平田
9 月 9 日	関川村・荒川地区・神林地区 高齢者三大学合同交流会	「自分の命を大切にしよう」	高橋邦
10 月 8 日	上海府地区地域講座	「中高年のメンタルヘルス」	佐藤拓
11 月 27 日	朝日地区猿沢公民館文化講演会	「中高年のメンタルヘルス～老後に向けて」	佐藤拓

12月8日	第7回朝日長寿大学	「毎日を楽しみ過ごすために今出来ること」	平田 佐々木
-------	-----------	----------------------	-----------

(5) 財政基盤の安定に関して

学部がスタートして丸2年を経過した今年度も、言語聴覚学専攻は未だ認知度が低く、志願者が少ないことが懸念されたが24名の入学者を確保でき、理学療法学専攻と合わせてリハビリテーション学科としての定員を確保した。本年度は年度当初より定員の充足を最重点課題として活動を行ってきたが、言語聴覚学専攻の定員確保に関してはまだ不十分であり、来年度は言語聴覚学専攻でも定員を満たすよう更なる努力が必要である。収入面の大きな要因である学生確保に最善を尽くす一方、支出に関しては教育の質維持向上を至上目標とした上で、コストパフォーマンスを重視し、熟慮を重ねた上での支出を心掛けた。さらに一層の経費削減に努力してゆく。大学に対する寄附行為に対しても適切な対応が速やかに可能となるよう体制作りを今年度から開始し、規則の整備を継続して行っている。来年度以降も更にこれらを積極的に推し進めてゆく。

(6) 学生会及び保護者会について

学生会は昨年度平成22年10月発足し活動を開始した。毎年6月下旬の学園祭、10月上旬の体育祭、この2つが学生会の企画運営する最も大きなイベントである。学園祭は多くの地域住民の参加もあり盛大で成功裡に終了することができ、地域に溶け込んだ行事の一つになりつつある。また体育祭も専門学校と大学、さらに各学年と各専攻に分かれての対抗戦形式で白熱した競技が行われ、学生間の交流を深める事ができた。そのほかにも新入生の歓迎会や専門学校の卒業生の送別会等を企画し、日々の学生生活が楽しく円滑にかつ有意義なものとなるように活動を続けた。

課外活動としては、昨年度より運動系サークルが2つ増え9サークル(バレーボール・バスケットボール・野球・武道・ダンス・サッカー・バドミントン・ランニング・テニス)に、文化系サークルが1つ増え、4サークル(アート・マンガ・いそべ会・軽音楽)となり、計13サークルが活発に活動を行った。

保護者会に関しては、第1回保護者会が昨年度の平成23年3月20日に予定されていたが、東日本大震災のため延期となり、今年度平成24年3月20日に初めての保護者会が開催された。保護者39名の参加があり、教職員を含めて60名以上を数える盛会となり、活発な意見が交換され親睦を深めることができた。また学生の通学の便を考え、村上駅・大学間及び坂町駅・大学間のスクールバスの運行を開始した。未だ運行本数も少なく認知度も低いため利用者は多くはないが、学生・教職員の便宜を図るため徐々に運行回数を増やして行く予定である。

3. 新潟リハビリテーション大学 大学院

(1) 事業報告

平成23年度は、院生の在籍者数が過去最多となったことから、教育・研究指導体制を一層強化して取り組んだ1年であった。

<カリキュラム・講義>

- a. 平成23年度は、1,2年生は新カリキュラム、長期履修の3年生は旧カリキュラムが適用される形での教育・研究指導体制となった。新カリキュラムでは、授業科目が系統的に整理されたことにより修了要件単位数が減り、修士論文研究のための時間が十分確保されるようになった。

参考：修了要件単位数は旧課程で必修34単位含む44単位(44の中には研究指導4含む)、

新課程では必修21単位含む30単位(30の中には研究指導4含まない)。

- b. カリキュラム外に、大学院生及び教職員を対象とした高度で専門的な内容を含む特別講義を下記の通り開催した。

講師：藤森勝也先生(新潟県立柿崎病院院長、医師(呼吸器専門))

日時：平成23年10月28日(金) 15:00~18:10

場所：本学サロン教室

講義内容：「咳に関する基礎知識(咳嗽とは、咳嗽発生機序、咳嗽の原因等)」

「代表的呼吸器疾患—気管支喘息、COPD、睡眠時無呼吸症候群の病態」

<研究指導>

c. 平成23年度在学学生、修了生はともに過去最多となった。修了生は8名であり、そのうち通常履修2年で修了した者、長期履修3年で修了した者は、ともに4名ずつであった。また摂食嚥下障害コースと高次脳機能障害コースの修了者も、ともに4名ずつであった。各修了生の修士論文題目と指導教員は、以下のとおりである。

* 摂食・嚥下障害コース

- ・「前口蓋弓への冷圧刺激が嚥下反射惹起に与える影響について」指導 真貝富夫
- ・「エスプーマ(泡状)納豆の新しい嚥下調整食としての可能性」指導 山村千絵
- ・「とろみ調整食品の添加による基本味覚閾値及び味覚強度の変化」指導 山村千絵
- ・「咳嗽による咳感受性への影響」指導 倉智雅子

* 高次脳機能障害コース

- ・「変性疾患の認知症における幻視と立方体模写に関する研究」指導 伊林克彦(←岩田まな)
- ・「FAQ・髄液・FDG-PETを用いたアルツハイマー病の分類」指導 高橋邦丕(←杉下守弘)
- ・「ティンカーの基準化への一試行」指導 野田忠(←岩田まな)
- ・「ティンカー検査と小児発達段階の関連について」指導 野田忠(←岩田まな)

また、平成23年度に新しく研究を開始した院生の研究テーマと指導教員は、以下のとおりである。

* 摂食・嚥下障害コース

- ・「口腔内での味の広がり及ぼす食物の硬さの影響」指導 山村千絵
- ・「頸椎装具使用時の頭部の角度変化が嚥下のしやすさに与える影響」指導 山村千絵
- ・「黄色の色彩は果汁飲料の酸味を強く感じさせるか？」指導 山村千絵

* 高次脳機能障害コース

- ・「健常若年者における頸部肢位の違いが立ち上がり動作へ及ぼす影響について」指導 浅海岩生(←佐藤舜也)

d. 学位規程に基づき、大学院修了生は1年以内に、修士論文研究を印刷公表することとなっている。平成22年度修了生3名のうち、2名は学術雑誌に論文が採択された。掲載雑誌は、理学療法科学(指導 山村千絵)と日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌(指導 山村千絵)である。あと1名は院修了後も研究を継続中であり、Dysphagia Research Society 学会で口頭発表(指導 倉智雅子)を行った。このように、院生の研究成果は着実に社会に公表されている。

<研究資金獲得>

e. 外部資金として、日本学術振興会科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金を以下の通り獲得することができ、当該研究課題はもちろん、広く教育研究にも使用できる機器類を多く設置することができた。

* 平成23~25年度 基盤研究(C)「新しいソフトスチーム技術を応用して咀嚼・嚥下困難者用食料を調整する」主任研究者 山村千絵 直接経費 4,000,000 円、間接経費 1,200,000 円

<管理運営>

f. 大学院の学則や規程類は、毎年随時、実情に合うように見直しを行っているが、平成23年度も以下の規程類の改定を行った。

- ・「学則」(第39条の変更:職員組織について、医療学部学則との整合性を図るため)

- ・「授業科目の履修方法、試験・評価規程」、「授業科目の履修方法、試験・評価規程における施行細則」、「新潟リハビリテーション大学大学院における長期履修制度取り扱い規程」「新潟リハビリテーション大学大学院特待生制度規程」
- また、大学院生の積極的な学会発表を奨励するために、新たに「学会旅費補助制度」を設け、活用された。

＜FD 活動＞

- g. 財団法人大学基準協会の認証評価に向けての情報収集に努めるとともに、作業部会が発足したことにより、具体的な提出資料作り等の作業に着手した。
- h. FD 活動、授業評価活動は、学部との共同実施により、発展・強化した。定期的な教員研修のほか、公開授業参観も行った。
- i. 平成23年度より「高等教育コンソーシアムにいがた」が設立され、本学も協力参加した。

(2) 学生確保に向けた取り組み

- a. 社会人でも働きながら通いやすい体制(①長期履修制度、②一人一人の希望タイムスケジュールを重視して編成した講義時間割、③Eメールを利用した連絡や指導 等)を、より一層強化したことにより、市外の病院に勤務する社会人も、平成23年度の入試により入学が決まり、病院勤務を続けながら通学することが可能となった。
- b. 学部が増設され2年目となり、将来的に学部と直結した大学院生の確保を見込むために、学部の学生募集にも協力を続けた。
- c. 専門学校就職相談会へ大学院ブースを出展した。何人かの学生は立ち寄ってくれたが、今年度の大学院入学には結びつかなかった。しかし、専門学校を卒業し臨床を何年か経験した後に、院で勉強したいという声が多数聞かれたので、将来の入学に繋がることを期待する。
- d. 厚生連との連携プログラムの一環として、県内厚生連病院勤務者で本学大学院に入学を希望する場合は、通学に便利な村上市内の厚生連2病院への勤務配置換えを考慮していただけるようになったが、これを利用して入学を希望する者はいなかった。今後を期待する。

(3) 教職員並びに教育の質的向上を目指した取り組み

- a. FD 委員会主導のもと、新任教員研修からはじまり、以後、定期的な FD 研修会を実施した。
- b. FD 委員会は、学生による授業評価ならびに教員へのフィードバックを行い、高評価の教員の公開授業参観を実施した。
- c. 他大学や機関での研修の機会が得られる場合には、参加を奨励した。
- d. 科研費をはじめとする外部資金の獲得のため、応募申請を奨励した。
- e. 学部増設に伴い、オンラインジャーナルや教育研究機器類が整備され、大学院教育・研究にも有効活用できた。

大学院所属教員はすべて学部所属教員でもあるので、FD 活動については学部と共通で行っている。詳細については学部の同項目記載箇所を参照していただきたい。

(4) 財政基盤の安定に向けて

- a. 学生確保、定員充足が難しい状況の中、大学院の適正な定員について継続審議を行ってきた結果、平成22年度(11月)の研究科委員会において、平成24年度より入学定員12名・収容定員24名とすることが決議された(収容定員減については、平成23年4月 文科省届出済)。これに基づき、平成23年度に行った入試からは新しい定員の枠で募集を行った。学生数及び定員充足ともに厳しい状況ではあるが、学部卒業生が輩出される平成25年度に向けて、教育研究体制をさらに充実させていきたい。
- b. 内部資金のみでは限界があるなか、外部資金として、日本学術振興会科学研究費助成事業学術

研究助成基金助成金を獲得することができ、当該研究課題はもちろん、広く教育研究にも使用できる機器類を多く設置することができた。また間接経費を使用して学内の諸設備を充実させることができた。今後も多くの外部資金を獲得できるよう、研究意識を高めていきたい。

4. 新潟リハビリテーション専門学校

(1) 学生教育・指導の充実に関する取り組み

- a. 学生教育の充実に向けて
 - 1) 臨床現場を視野に入れた指導の充実に努め、臨床実習での成果向上を図った。
 - 2) 学業不振、学外実習成績不振の学生に対して、学生、保護者、教員三者の密な連絡・意思疎通に努め、三者合意の下で“卒業を目指す特別プログラム”を組み、きめ細かい補習授業・実習・指導を行った。
- b. 就職支援の充実に向けて
 - 1) 学生の就職活動に関する情報の共有化に努め、支援の強化を図った。
 - 2) 今年度も、4年生を対象とした「就職相談会」を2回、3年生を対象とした「就職支援講演会」を開催した。
- c. ハラスメント防止対策強化に向けて
 - 1) 学内はもとより臨床実習での「ハラスメント」防止対策に力を入れ、授業での具体的な事例検討や実習前のオリエンテーションを強化した。
 - 2) 学生を守ることはもちろんのこと、臨床実習指導者自身をも守るという観点で臨床実習指導者を主な対象とした特別講演会を開催し、指導者・学生を含め約 100 人の参加者を得た。

講演 「臨床実習時のハラスメント防止について ― 臨床実習指導者のあなたを守る ― 」
講師 (社)日本理学療法士協会倫理委員長 内匠 正武氏

(於本校・3月4日)
- d. スクール・カウンセラーの活用
 - 1) 今年度もスクール・カウンセラーの援助を得た。
 - 2) 平成 23 年度相談実績
カウンセリング実件数 6 件
カウンセリング延件数 19 件
- e. 学生会への援助
 - 1) 学生会の活動が、専門学校生から大学生へ円滑に移行できるよう援助した。
 - 2) 今年度のイベントは専門学校生と大学生との共同で開催されてきたが、10 月、引き継ぎが全て終了した。

(2) 既卒生を含めた国家試験対策に関する取組

- a. 国家試験を視野に入れた授業、指導を行い、現役学生の国家試験合格率向上を図った。
- b. 既卒生の国家試験対策のための「サポートシステム」の充実に努めた。このシステムを利用した既卒生の合格率は、利用しなかったものに比べ高いという結果が出た。
- c. 複数の学外講師による対策授業が継続されたほか、リハビリテーション大学の多くの教員の支援も受けることができた。

(3)教員の質的向上に関する取り組み

a. 学会・研修会参加

理学療法学科

- | | | |
|--------|------|------------------------------|
| 星野 浩通 | ① 9月 | 第30回関東甲信越ブロック理学療法士学会(新潟県新潟市) |
| | ②10月 | 第46回全国学術研修大会(山梨県甲府市) |
| | ③ 1月 | BHI2012(中華人民共和国 広東省 深圳) |
| 児玉 敏彦 | ① 9月 | 第30回関東甲信越ブロック理学療法士学会(新潟県新潟市) |
| | ②10月 | 新潟県理学療法士会新人研修会(新潟県新潟市) |
| | ③11月 | 新潟県理学療法士会学術集会(新潟県新潟市) |
| 佐藤 千恵美 | ① 6月 | キネシオテーピング 基礎講座 |
| | ② 7月 | 第26回キネシオテーピング臨床発表会 |
| | ③ 9月 | 浮腫について 基礎講座Ⅰ |
| | ④10月 | 浮腫について 基礎講座Ⅱ |
| | ⑤10月 | キネシオテーピングセミナー |
| | ⑥11月 | 第4回キネシオテーピング療法学会大会 |
| | ⑦12月 | キネシオテーピング 会長セミナーin 仙台 |
| 原口 裕希 | ① 9月 | 第30回関東甲信越ブロック理学療法士学会(新潟県新潟市) |
| | ②10月 | 第46回全国学術研修大会(山梨県甲府市) |
| | ③ 1月 | 第19回PTOT 海外技術協力セミナー(東京都) |
| 金子 雄太 | ① 5月 | 第46回日本理学療法学会学術大会(宮崎県宮崎市) |
| | ② 9月 | 第30回関東甲信越ブロック理学療法士学会(新潟県新潟市) |
| | ③10月 | 新潟県理学療法士会新人研修会(新潟県新潟市) |
| | ④ 1月 | 新潟県理学療法士会技術研修会[吸引に関する解剖・実技] |

作業療法学科

- | | | |
|-------|------|-------------------------------------|
| 小野 敏子 | ①11月 | 第26回日本RAのリハビリ研究会学術集会(北海道札幌市) |
| | ②11月 | 日本保健医療福祉連携教育学会第4回学術集会
(神奈川県横須賀市) |
| 松尾 真輔 | ① 9月 | 第30回関東甲信越ブロック理学療法士学会(新潟県新潟市) |
| | ②10月 | 国際福祉機器展(東京都江東区) |
| 須藤 崇行 | ① 6月 | 第45回日本作業療法学会(埼玉県大宮市) |
| | ②11月 | 第35回日本高次脳機能障害学会(鹿児島県鹿児島市) |

言語聴覚学科

- | | | |
|-------|------|--|
| 高橋 圭三 | ① 2月 | 日本嚥下医学会(高知県高知市) |
| | ② 3月 | Dysphagia Research Society Post-Graduate Course and 20 th Annual Meeting (Toronto, Ontario, Canada) |
| 山崎 暁 | ①10月 | 第25回標準ディサースリア検査(AMSD)講習会 in 南東北 |

b. 論文

○星野 浩通

「リハビリテーション用PCゲームの開発-ボタン押しゲームの操作時間と片麻痺回復段階の関係-」
電気学会論文誌C, 第132巻第3号 p384-390,2012

○原口 裕希・山村 千絵

「健常者の体幹及び頭頸部の姿勢変化が咀嚼の効率に及ぼす影響」

理学療法科学 27巻2号 p171-175,2012

c. 報告文

○河野 眞・小檜山 希・藤田 賀子・石井 清志・原口 裕希:

「汁粉とマッサージで心も体もほっかほっかだ〜」プロジェクト始動する

○河野 眞・小檜山 希・藤田 賀子・原口 裕希・石井 清志:

「リハビリテーション専門職による大規模自然災害被災者支援～JOCV リハビリテーションネットワークによる東日本大震災被災者支援活動の経験から～」

日本在宅ケア学会誌 Vol.15 No2,p19-24,2012

d. 学会発表

○星野 浩通

IEEE-EMBS International Conference on Biomedical And Health Informatics BHI 2012

(中国・1月5～7日)

「リハビリテーション用PCゲームの開発—ボタン押しゲームの操作時間と片麻痺回復段階の関係」

○原口 裕希

第46回日本理学療法学術大会 (宮崎県宮崎市・5月27～29日)

「JOCV リハビリテーションネットワークの現状と活動意義設立から2年を迎えて」

○原口 裕希

第35回日本高次脳機能障害学会(鹿児島県鹿児島市・11月11～12日)

「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に求められる高次脳機能障害の知識～過去10年間の国家試験問題の分析～」

○金子 雄太

第46回日本理学療法学術大会 (宮崎県宮崎市・5月27～29日)

「座位姿勢における頭頸部角度の違いが1回嚥下量に及ぼす影響」

○高橋 圭三

日本嚥下医学会(高知県2月10日～11日)

「健常若年者の舌骨上・下筋群活動に及ぼす前舌保持嚥下法の影響」

○高橋 圭三

Dysphagia Research Society Post-Graduate Course and 20th Annual Meeting

(Toronto, Ontario, Canada ・3月8日～10日)

「Effects of the Tongue-hold swallow upon the electromyographic activities of the submental and infrahyoid muscles in young healthy adults.」

e. 講演・研修会講師など

○原口 裕希 平成23年度福祉用具専門相談員指定講習会(新潟市・12月24日)

講師:「福祉用具の活用に関する実習」

○小野 敏子 第19回山形県作業療法学会(米沢市・5月22日)

特別講演:「臨床に役立つ実践力」

○小野 敏子 平成23年度福祉用具専門相談員指定講習会(新潟市・12月24日)

講師:「福祉用具の活用に関する実習」

○高橋 圭三 平成23年度下越地区地域歯科保健研修会(新発田市・12月15日)

講師:「摂食・嚥下困難者の評価と支援」

f. 学内勉強会

○原口 裕希「健常者の頭頸部を含めた姿勢変化が咀嚼の効率に及ぼす影響」 (4月6日)

○金子 雄太「健常者の頭頸部を含む姿勢変化が呼吸機能へ及ぼす影響」 (4月27日)

○原口 裕希「災害とリハビリテーション」 (5月11日)

○高橋 圭三「健常若年者の舌骨上・下筋群活動に及ぼす前舌保持嚥下法の影響」 (6月8日)

○星野 浩通「文献抄読:物理療法機器の使い方」 (7月6日)

○須藤 崇行「前口蓋弓への冷圧刺激が嚥下反射惹起に与える影響について」 (11月2日)

○山崎 暁「変性疾患の認知症における幻視と立方体模写に関する研究」 (11月30日)

○山崎 暁「変性疾患の認知症における幻視と立方体模写に関する研究-追加報告-」 (2月22日)

- 須藤 崇行「前口蓋弓の冷圧刺激が嚙下反射惹起に与える影響について-追加報告-」（3月14日）
- 星野 浩通「リハビリテーションツールの開発と片麻痺回復段階の評価」（3月28日）

g. 臨床現場での定期的研修・出向実績

- 児玉 敏彦 リブインハーモニー三之町(週1回)
- 原口 裕希 胎内やすらぎの家(月2回)
- 金子 雄太 ひまわり荘(月1回)
- 金子 雄太 村上記念病院(週2回)
- 須藤 崇行 村上記念病院(週1回 ~7月)
- 塚原 智弘 村上市精神障害者通所授産施設 やまびこの家(年6回)
- 山崎 暁 胎内市リハビリ教室(年4回)

h. 教育現場での研修実績

- 星野 浩通 新潟大学大学院(週1回)
- 須藤 崇行 新潟リハビリテーション大学大学院(不定期)
- 新垣 孝幸 新潟リハビリテーション大学大学院(不定期)
- 山崎 暁 新潟リハビリテーション大学大学院(不定期)

(4)社会的活動

a. 地方自治体・職能団体からの委嘱

- 星野 浩通 村上国際トライアスロン大会実行委員会 アイシング部 部長
- 児玉 敏彦 新潟県理学療法士会生涯学習部 委員
- 原口 裕希 日本理学療法士協会国際部 協力委員
- 金子 雄太 村上市介護認定審査会 委員
- 小野 敏子 村上市第2次障害者計画及び第3次障害福祉計画策定委員会 委員
- 小野 敏子 村上・岩船地域自立支援協議会 委員
- 上杉 文都 新潟県作業療法士会広報委員会 委員
- 新垣 孝幸 村上市・岩船郡介護給付費等支給審査会 委員
- 松尾 真輔 村上市介護認定審査会 委員
- 松尾 真輔 新潟県作業療法士会広報委員会 委員
- 須藤 崇行 村上市介護認定審査会 委員
- 須藤 崇行 新潟県作業療法士会広報委員会 委員
- 塚原 智弘 新潟県作業療法士会臨床実習指導研修委員会 委員長
- 高橋 圭三 新潟県言語聴覚士会学術部摂食・嚙下障害部門 委員
- 山崎 暁 新潟県言語聴覚士会広報部 委員

b. 東日本大震災復興支援活動

- 児玉 敏彦 新潟県理学療法士会の東日本大震災被災者支援ボランティア
(下越地区連絡担当) (4~8月)
- 原口 裕希 JOCVリハビリテーションネットワーク震災支援
(福島県二本松市・Jica 二本松 月1回 4月~8月)
- 原口 裕希 JOCVリハビリテーションネットワーク震災支援
(岩手県大船渡市・慈愛福祉学園デイサービスセンター 4月)
- 原口 裕希 JOCVリハビリテーションネットワーク震災支援
(福島県二本松市仮設住宅 月1回 9月~1月)
- 原口 裕希 JOCVリハビリテーションネットワーク震災支援「絆まつり」
(福島県二本松市岳下住民センター仮設住宅 12月)

- 原口 裕希 認定 NPO 法人難民を助ける会震災支援
(宮城県石巻市仮設住宅・岩手県大槌町仮設住宅 9月16～19日)
(宮城県女川町仮設住宅・岩手県大槌町仮設住宅 11月3～5日)
- 金子 雄太 新潟県理学療法士会の東日本大震災被災者支援ボランティア(6～8月)

(5)閉校準備に関する活動

a. 教務に関するシステムづくり

閉校に向けた成績の管理・保存方法等を含めた成績証明書発行に係るシステムづくりを検討した。次年度も継続して作業を行い、閉校後の成績証明書発行がスムーズにいくようなシステムづくりを行う。

b. 閉校記念誌作製準備

学園が「地域と学園を繋ぐ実践集録」として発行している「ゆめ 第9号」を、閉校記念特集号とすることで理事会の承認が得られ、具体的な内容の検討、寄稿いただく候補者の選定、写真資料の収集などを行った。

c. 閉校記念式典準備

式典は大々的にせず規模を小さく卒業式と同日・同会場での開催とし、卒業式終了後に行うことで理事会の承認が得られ、具体的な内容を検討した。

d. 閉校記念イベント準備

リハ大学ならびに看護医療専門学校の指導・協力を得ながら、地域の方々の健康や福祉に貢献することを目的とした記念イベントの内容の検討、基調講演の講師依頼などを行った。

5. 新潟看護医療専門学校

(1)事業報告

【学生教育・指導の充実】

- a. 教員による授業に関する自己評価を実施し、次年度の授業改善に努めた。
- b. 学生による授業に関する自己評価を実施し、次年度の授業改善に努めた。
- c. 開校後初となる職員による学校運営評価を実施し、改善点を検討し、事業計画を立案した。
- d. 実習後、かなりの時間をかけて評価会議を実施し、実習の充実と学生の理解に努めた。
- e. 入学予定者に対し入学前指導を行う等、学生の基礎学力向上に努めた。

【教育環境の充実】

- a. 司書配置は実現していないが、次年度、委員会設置など図書室利用改善を計画・検討中である。
- b. 学生の声に耳を傾け、できる範囲で学生へのサービス向上に努めた。

【国家試験対策】

- a. 国家試験対策委員会では、これまでの反省を踏まえ、合格率向上を目指した指導徹底に努めた。
- b. 例年どおり3学年による合同模擬試験を実施し、国家試験合格率向上を目指した。
- c. 年間の時間割に予備校講師による特別講義を組み入れ、国家試験対策を強化した。
- d. 例年どおりチューター制による指導を実施し、国家試験合格率向上を目指した。

(2)学生確保に向けた取り組み

- a. 学生募集委員会を設置し、広報活動計画、入学試験実施計画を検討し、定員の充足に努めた。オープンキャンパス3回その他、学校独自(業者主催以外)の学校説明会を4回、東洋医療学科希望者限定の夜間学科説明会を3回開催したことにより、看護学科、東洋医療学科ともに出願者数増に繋がった。
その他、前年度に引き続き中学校からの学校訪問(見学)や職業体験等の要望に対しては希望に

応じ随時受け入れ、学校の知名度アップに努力した。

また、教員や在学生にオープンキャンパスや学校訪問での体験実習の指導を依頼し、好評を得た。

(3)教職員並びに教育の質的向上を目指した取り組み

- a. 各専門科目(領域)の研修会参加を計画し、教員の質的向上に努めた。
- b. 各担当領域の分科会を中心とした研修会参加により、個々の教員が質的向上に努めた。

月	研 修 名
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員の会 現任教育委員会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 理事会(新潟市) ・国家試験対策教員セミナー(埼玉県) ・看護教員再教育研修 キャリアアップ研修会 企画検討会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 精神看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 老年分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 理事会(新潟市) ・第 83 回 新潟県看護協会通常総会(新潟市) ・東洋医療学校協会 平成 23 年度第 1 回広報委員会(東京都) ・新潟県看護教員の会 総会(新潟市)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員の会 母性看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員再教育研修(新潟市) ・新潟県看護教員の会 在宅分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 統合分野情報交換会(新潟市)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員再教育研修(新潟市) ・新潟県看護教員の会 統合分野情報交換会(新潟市) ・新潟県教員の会 精神看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 老年分科会(新潟市) ・TCI コーチング研修会(東京都)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 夏期研修会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 理事会(新潟市) ・看護師国家試験対策指導セミナー(東京都) ・新潟県看護教員再教育研修(新潟市) ・第 35 回社団法人東洋療法学校協会 教員研修会(東京都)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員の会 統合分野情報交換会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 研修会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員再教育研修(新潟市) ・第 42 回日本看護学会 学術集会(兵庫県) ・平成 23 年度 看護記録研修会(新潟市) ・第 33 回東洋療法学校協会学術大会(大阪府) ・基礎教育研修セミナー(東京都) ・新潟県看護教員の会 成人看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 老年分科会(新潟市)

	・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市)
11月	・新潟県看護教員再教育研修(新潟市) ・新潟県看護教員の会 研修会(新潟市) ・パトリシア・ベナー博士来日講演会(神奈川県) ・新潟県看護教員の会 老年分科会(長岡市) ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市)
12月	・平成 23 年度 副学校長・教務主任会(東京都) ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 精神看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 成人看護分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 老年分科会(新潟市)
1月	・新潟県看護教員の会 統合分野情報交換会(新潟市)
2月	・新潟県看護教員の会 現任教育委員会(新潟市) ・日総研 研修会(東京都)
3月	・看護師国家試験対策セミナー(東京都) ・第 117 回 日本解剖学会総会・全国学術大会(山梨県) ・看護師等養成所教員研修会(新潟市) ・東日本大震災被災者支援に関する研修会(岩手県)

(4)財政基盤の安定に向けて

学生確保について、看護学科は前年度を上回る入試倍率トータルで約 6.5 倍という好調を維持した。東洋医療学科は今年度より導入した第二志望合格者を加え、昨年度の入学者数を大幅に上回る学生確保に繋がった。

また、昨年 10 月末に締結した「セルテック新潟柔道整復師養成学院との入学生優遇制度に関する提携」により、東洋医療学科の定員充足を目指し更に努力したい。

(5)自治会の活性化

自治会が主体となるスポーツ大会等、各種の特別教育活動でも、両学科の役員が中心となり、計画から実行そして反省まで一連の流れで実施されている。2 学科体制として新たな活動が開始され 2 年目となり、さらに活発に意見交換がなされている。次年度も、引き続き活性化に期待したい。

Ⅲ. 財務の概要

1. 概況説明

(1)全般概況

平成23年度の財務状況は経年比較(表1から表4)のとおりである。

平成23年度は学部の入学生の定員充足により学生生徒納付金収入が 3,371 万 2 千円増加した。支出に関しては徹底した予算管理、教職員のさらなるコスト意識の向上に伴い、昨年度に引き続き管理経費を 619 万 5 千円削減することができた。また、平成 22 度は消費収支差額比率が△35.4%であったが、平成 23 年度は△20.1%となり、完成年度に向け回復はしているものの引き続き学生募集に全力を注いでいかなければならない。

(2) 資金収支の状況

平成 23 年度資金収支計算書は表2のとおりである。

平成 23 年度は学生生徒納付金 3,371 万 2 千円の増、入学検定料は学部の出願者が減少したものの看護医療専門学校の出願者が大幅に増加し 63 万 5 千円の増額となった。教育研究経費支出は学生数増加により 297 万 91 千円増加し、管理経費支出は経費削減に努め、619 万 51 千円の減となった。設備関係支出では学部のバスを購入し、360 万円を支出した。結果、資金残高としては約 3,100 万円減額の 4 億 2,909 万 7 千円となった。

(3) 消費収支の状況

平成 23 年度の消費収支計算書は表3のとおりである。

帰属収入は学生生徒納付金収入、手数料収入、寄附金収入、補助金収入、雑収入ともに増加し、全体で 3,998 万 3 千円の増額となった。消費支出は、人件費支出、管理経費支出の削減により当年度の消費支出超過額は平成 22 年度と比較し 7,412 万円下回った。

(4) 貸借対照表の状況

平成 23 年度の貸借対照表は表4のとおりである。

資産の部の設備取得は 1,140 万 4 千円であったが、8,436 万 9 千円の減価償却により固定資産は 7,028 万 1 千円減少している。支払資金の減少もあり資産合計では 1 億 168 万 1 千円の減少となっている。負債の部は新入生増加に伴う前受金増加により 709 万 7 千円増加となった。また、第1号基本金の増加は設備取得に伴うものである。

2. 経年比較

表 1

区分	全般比較 (平成 21 年度より平成 23 年度)			(単位:千円)
	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
資金収入	646,003	632,397	666,093	
帰属収入	576,297	505,605	541,666	
基本金	2,283,913	2,322,800	2,357,766	
総資産	2,108,804	1,975,179	1,873,498	

表 2

資金収支計算書
(平成 21 年度より平成 23 年度) (単位:千円)

収入の部					支出の部				
科目	21 年度	22 年度	23 年度	うち大 学	科目	21 年度	22 年度	23 年度	うち大 学
学生生徒等納付金収入	549,546	484,057	517,769	240,375	人件費支出	383,197	443,466	408,528	186,699
手数料収入	9,200	10,710	11,346	4,145	教育研究費支出	98,507	102,500	105,479	52,237
寄附金収入	600	0	953	400	管理経費支出	73,995	54,279	48,083	23,707
補助金収入	5,911	427	883	0	施設関係支出	109,836	0	0	0
資産運用収入	548	107	58	0	設備関係支出	44,061	52,402	11,404	10,540
資産売却収入	8,165	0	0	0	資産運用支出	3,508	3,321	278	0
雑収入	8,657	10,072	8853	3,019	その他の支出	121,604	114,060	139,934	12,653
前受金収入	275,230	305,024	334,670	185,000	資金支出調整勘定	△15,363	△36,695	△16,758	△3,360
その他の収入	103,455	103,916	102,195	12,653	次年度繰越支払資金	560,893	459,955	429,097	
資金収入調整勘定	△315,311	△281,918	△310,636	△134,988					
前年度繰越支払資金	734,238	560,893	459,955						
収入の部合計	1,380,241	1,193,291	1,126,049		支出の部合計	1,380,241	1,193,291	1,126,049	

表 3

消費収支計算書
(平成 21 年度より平成 23 年度) (単位:千円)

消費収入の部					消費支出の部				
科目	21 年度	22 年度	23 年度	うち大 学	科目	21 年度	22 年度	23 年度	うち大 学
学生生徒等納付金	549,546	484,057	517,769	24,0375	人件費	384,295	445,564	412,510	190,885
手数料収入	9,200	10,710	11,346	4,145	教育研究費	175,278	182,327	187,711	75,008
寄付金収入	1,110	230	2,659	2,105	うち減価償却額	76,770	79,826	82,231	22,771
補助金収入	5,911	427	883	0	管理経費	76,956	56,690	50,221	23,798
資産運用収入	548	107	58	0	うち減価償却額	2,960	2,410	2,138	91
資産売却差額	193	0	0	0	資産処分差額	209	0	0	0
雑収入	9,787	10,072	8,949	3,019					
帰属収入合計	576,297	505,605	541,666	249,645					
基本金組入額合計	△159,007	△38,887	△34,965	△26,826					
消費収入の部合計	417,290	466,718	506,701	222,819	消費支出の部合計	636,739	684,581	650,444	289,692
					当年度消費 支出超過額	219,448	217,863	143,743	66,873
					前年度繰越 消費支出超過額	286,075	505,523	723,387	335,253
					翌年度繰越 消費支出超過額	505,523	723,387	867,130	402,126

表 4

貸借対照表
(平成 21 年度より平成 23 年度) (単位:千円)

資産の部				
科 目	平成 21 年度末	平成 22 年度末	平成 23 年度末	うち大学
固定資産	1,534,880	1,500,824	1,430,543	250,893
有形固定資産	1,511,625	1,482,021	1,410,761	250,893
その他の固定資産	23,255	18,803	19,782	0
他部門繰入金				
流動資産	573,924	474,354	442,955	384
資産の部合計	2,108,804	1,975,179	1,873,498	72,356
負債の部				
科 目	平成 21 年度末	平成 22 年度末	平成 23 年度末	うち大学
固定負債	27,573	24,391	23,809	13,074
流動負債	302,842	351,374	359,053	185,720
負債の部合計	330,415	375,766	382,863	198,794
基本金の部				
科 目	平成 21 年度末	平成 22 年度末	平成 23 年度末	うち大学
第 1 号基本金	2,234,913	2,273,800	2,308,766	321,002
第 4 号基本金	49,000	49,000	49,000	
基本金の部合計	2,283,913	2,322,800	2,357,766	321,002
消費収支差額の部				
科 目	平成 21 年度末	平成 22 年度末	平成 23 年度末	うち大学
翌年度繰越消費支出超過額	505,523	723,387	867,130	447,441
消費収支差額の部合計	△505,523	△723,387	△867,130	△447,441
科 目	平成 21 年度末	平成 22 年度末	平成 23 年度末	
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	2,108,804	1,975,179	1,873,498	72,356

3. 収益事業

医療保険業を行っており、当期の状況は次のとおりである。

(1) 損益計算書	(単位:千円)	(2) 貸借対照表(単位:千円)	
診療収入等	4,020	資産	11,702 (うち現預金 10,974)
売上原価	630	負債	13
期末棚卸高	107	元入金	11,898
売上総利益	3,496	繰越損失	△208
諸経費	1,694		
当期利益	1,802		